

青本踏水白梅園と号し又三者軒といふ家
 書訓諧新式あり享保十一年癸丑三月廿六
 日卯年七十六初敬假名也説
 今按大石良雄等報此ハ元禄辛巳十四年
 十二月一十一日踏水が四十四歳の時あり此ハ
 此書宿時見聞の儘寫し出せる事
 中少可き事あり享保十年の漢義ハ
 漢語の同様の漢語あり可なり
 楓亭園主人記





序

臣事君以忠君以礼臣之於君也忠也君之於臣也礼也
 今此十卷之述
 亦の教養の善く世に於て人の心あり
 若話ありたりとも其忠のありあり
 今古一片の心を通して後の見



人との言句都々其の文義の學
 亦の教の採りて其の多し人
 口吃く其の言の多し人
 意其のなるを納せし其の多し人
 此の言の一字に忠の心

所 遠
 號 668
 卷 1

白楊園醫水



明治三十七年
 九月十一日

高名高名太平記卷目録

前集

卷之一

江川渡井も見家あはれ出あはる
 野上春之魚は小依と関傳あはる
 見家あはれ浦もあはれ見
 片見傳あはる母買あて子と傳あはる
 大西浦も女所當あはる
 一子力も見家あはる

海野もくは痛あて海もあはる
 山田角之をまぬあはる
 書あますとすめ後と切あはる
 角之をく龜乳のこも入るあはる
 柳もあはる

卷之二

堀江屋もあはる
 小山もあはる
 藤屋もあはる

の氣がなればよりて其れをとりて
史記の貨貨殖傳にあり

吳王夫差越王勾踐と因りて
危難忠儀いりて貞實とたり事

矢田丹之十女めく義心あり事

楊摩より近所丹六書おれんとたれ事
不恩後の縁ありてお傍事とことじ事

足輕中者大儀の忠節れ公あり事
御父傳を更をたんとて物とる事

落城の烈士卒んく事

卷之三

浪人の書事よ出ぬひは義とあり事
納りんよよりて寵愛あり女れ事

御執めて忠義ふんとてあり事

不敵な儀の運義あり事

城下よ火のわじ長傳とて事
目刀とて乞へ事

軍人よりて後亡君の廟あり事

河村乳とPかけくろ
忠儀よりて科とゆさわろ

茶の湯者不家妻を其義とさるる

矢川三平太乳とさるる

落城の刻人此命と彰る

卷之四

向若他の安物遠妻と恨て病死する

同若若七合れあといひて父と孫と
父を愛と信くあきとつくる

若の範頼義経あは討て軍が事

楠と義貞此事付り川と事

正成ららにの事

皇子軍此事付り孫長事

兵五圍周縁子あて軍法とんある

帝此北而牛人と出で路をうへはる

今忠傳又主人の歌と祈る

僕源助たその事

太平記孫長乃る

傳又言後傳人よせられたるは義と云ふ事
吾討の節源物にたどつくと事
歌討の後よんは約束と云て源物死す

卷之五

妻愛めてまゝと傳ふ事并歌あはる事
吾之意もして傳と月夜却て立後れり
老臣比まらりまうてた云と事あり
鼻はなご核鼻のわら核と知あり
莊子が渾沌のくありれり

知りよあきまゝと好む知てゆ
核推り月と事といふなるれかられり
渾の善道法と云ふ事

死とかそれ方傳云核も長はるる事あり
公より電をいふの乳母はゆと事
科わらふかあそひゆると事あり

竊のよれも伝をれり

玉將息として浮統と伝と事あり
七佛といふ事あり

卷之六

大西浦の女彦本所おびしむ境は持たる

競馬香とり酒とりはる

三浦久次大將茶よ女く酒とりはる

吉之方は夢ひはた秋よあけりさくはんと

わつらり事

新田後五九足利基氏家臣となり

海の女智畧とて徳と徳とあつゆり

あしあみあみ女智畧とて徳と徳と

疑竊秩の流とつらり新田

梵字堂と名つら思義はし

沿くの智珠と知んあ影と出て軍

れは身と入れよ

卷之七

あ聖九郎素姓の事

欠落をて妻愛りてまの死せらる

余欲の信よりふんとわやまら

伊夜又出夜六阿附不長

龍嶺陣議遠変よつゝ家臣未んせり
小野九月吉田世徳忠義死と勅事

海野重代の母とつれ給て欠あり

大西方の忠義坊富林亦勇氣死事

大西方一味乃とは義は依て命と轉り

海野方配當の命を食つて逃免たり

行忠傳又松川十良大西が命とせ給じ

忠義の勇とわつと事海之女同子

小遠と海野とつらから後つり

卷之八

浦之女亡君乃母忠と事

陣乃是時徹夜と攻し謀と死ひ

官全配當の母と事母亦事

赤小豆屋清き清と不被筆大あり

忠義の母と事と世長絶え世

海之女取付の命配十系は後と出

海野方乃忠義を途と事あり

人殺すその事夜討り事

一換つてれども七君の仇と報へり

卷之九

忠臣軍千人七君に敵を首とす

大内浦の女狗死といふ

片思ふ女もやまりて切られり

聖見宿禰土偶と造つて狗死ふ

織部平兵衛と君とて切られり

飯多宗室切後の刺殺す

書義とすめん

小野田を自敷のり又九回び

瀬乃女千人は女に

とす

帝の御前

高倉太車記巻目録終

高名太平記後集

十卷
板行

右此書小波なる義士悉河迄之者也

高名太平記

○卷之一

江州浅井多見家其會小出あり
 野上吉之助宗依と關澤小乃と
 多見家其大和浦之女也其
 序思傳あり母賢ありて子伝傳あり
 多見家其大和浦之女也其
 大和浦之女也其大和浦之女也
 一子力之懸十又ありて父と傳あり

浦野のりく徳病うて海氣よきなり

山岡角之を文母也義乃す

妻丈とすめ後と切なり

角之をり麩乳のそみり入るり歌

城神ひひけり事

高名太平記卷之一

○い井も見の要家は忠儀の事

今を昔清井の母とて悪くつるを双たさる馬の達人
なりいあき武功の家小守れて恩揚の兼代又后任
し代忠臣の名あり寛仁よりて民とあて繪坊うそ
能乃妻とほむの賢方あつる心ま玉の民うそ
ひて堯舜をそよあつるいんぞ古とあつらんと徳よ
あつる風とそよひて四方の人あふ家とあつらんすと乳
ふのそなりされむ日月あつるうあつんとすれむあつ
むとあつる樹とぶらあつんとすれむと風と枝とあつ
すむの野とあつるといふ義士といふうは福のりありて
終よ甲世の場とあつるさかよりハ一年強念よあわて

百その和舟自島江口して去海産の後に乃くのあたきあ
 つめつあやむ。秋よのりせ。る家つ力林長と元忠のま下ん
 まるま。産の甲してあやうびのおと定て。それよひは
 きりくつ。東艦の流し。うと。て。今とかなはは念と隠
 陸奥乃固ととやと。真ありてなうた極びかかおと。い
 少への例といれ。四海一とれ。代千支乃光りあぐ絶ら
 ちあくるおと。ゆまる。を祚文表のまれ。日の水さづきと
 なくさむ。是は海なれりやあつと。其の比のむて。何まび
 葉とたりとや。ま。か。乃く。高番と縁て。乃青よひ。と信
 されきり。小。あ。り。時。仙。集。と。や。つ。つ。雲。司。の。降。ま。て。元。久。友
 と。つ。あ。魚。丸。い。な。れ。は。く。飛。れ。と。つ。う。く。乃。李。の。健。集。日
 ころゆりて。陸奥乃。徳。表。士。諸。代。官。言。下。と。い。と。と。和。舟。小

ん。さ。し。ら。る。昔。は。皆。ま。の。ひ。う。う。事。あ。ぞ。あ。り。せ。ら。な。り
 野と。ま。ま。い。ふ。人。あ。り。其。の。う。み。と。秋。野。の。境。ら。て。さ。か
 が。道。の。建。人。と。わ。さ。り。つ。と。あ。も。ひ。ら。う。ふ。と。さ。う。と
 ほうしたなく。懐か。かり。な。れ。と。は。や。く。表。為。乃。道。少。み
 ま。け。つ。ら。な。ゆ。も。と。あ。ぬ。今。及。む。あ。は。南。東。は。も。あ。み
 方。よ。出。立。し。と。和。秋。乃。り。う。と。む。と。さ。う。ひ。青。之。が。指。あ。れ。う
 たり。ゆ。り。と。も。打。ぬ。さ。う。と。事。た。り。と。と。か。り。づ。う
 せ。よ。南。集。ま。く。人。と。人。た。お。ひ。う。と。ど。お。の。づ。島。の。後。方。お
 叶。し。と。れ。と。只。つ。う。と。い。は。む。を。言。つ。あ。で。人。の。ま。お。ひ
 う。り。つ。ら。な。せ。と。の。かり。と。う。れ。と。事。も。さ。う。い。ひ。さ。ん。の。感
 も。秋。乃。よ。は。今。と。し。ま。え。集。た。も。あ。も。あ。り。結。あ。し。と。乃
 亭。ま。の。か。ら。人。の。あ。ま。う。と。く。そ。と。と。わ。さ。う。と。経。の。人

かねて後いよつたぐ。さかひきあふるうはあま入を
 めくもいやまをまがりうらましくその目れ披露もさか
 づねなうして例は何れも。あなれ願入十首と徳あひく
 れあよるまうけいふまをさかりハま家昭村といふ
 題かり。これな房裡とてあめくやあかすのさかあ
 ち身の面をかまはひいて。まかをたわりのゆハ。秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん

うものさかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん
 ちりみかまはひあひひいて。さかあふもあかすのさかあ
 といく。あひひきられさかると吉之かのかさあなれ秋夕傷ん

高橋家記



高橋家記



とくわく。和方の遊流りてあゆみのたゞさきも。海より
たれん。きん人の要領。吉之助の御。京都より山崎の
所本。うし由。果のれ。席の事。ゆりも。い。点式
わのな。よつ。い。んや。也。同。い。け。あり。あ。也。見。こ
せ。ら。ふ。只。中。わ。い。ゆ。こ。ま。の。き。ら。け。か。で。習。目。つ。の
症。より。少。よ。な。よ。も。ん。と。あ。い。ま。い。き。り。と。後。井。何。う。や
P 咽。坊。い。な。の。後。の。種。ゆ。い。つ。の。な。り。と。か。と。下。り
て。一。る。わ。い。ま。い。に。入。い。こ。も。見。の。使。い。少。く。將。換。の。場
と。あり。て。我。り。こ。も。い。つ。の。な。り。わ。い。と。て。た。よ。れ。ま。い
ら。も。も。わ。ね。ね。を。い。い。ま。い。い。ん。も。是。吉。之。の。や。り。知。さ
か。り。の。御。牌。也。塩。煮。か。ら。い。か。い。と。か。の。い。つ。あ。い。い。と
い。そ。う。い。つ。ゆ。ま。よ。ま。い。い。つ。と。も。見。の。使。の。家。長。大。西。浦。の

女。書。物。と。い。く。意。用。の。由。や。ま。り。け。り。と。そ。う。い。は。れ。り。や。り
んと。初。い。か。し。詞。と。い。て。越。上。具。の。因。と。な。り。て。和
て。せ。う。事。に。た。無。世。は。あ。り。と。お。し。か。る。と。ま。て。又
一。その。影。と。い。く。か。の。く。秋。あ。り。ま。た。替。の。名。替。わ。く。わ
ち。ま。い。あ。り。と。ま。り。り。身。の。無。を。て。その。い。と。ま。り。て。懐
い。れ。何。と。い。く。その。目。と。鞠。ら。し。ま。る。か。た。よ。う。と。又。あ。な。い
一。首。の。歌。か。ら。い。て。い。ん。ま。ま。あ。は。浦。の。女。子。詠。と。ま。り
一。歌。こ。も。い。つ。り。も。身。の。無。の。あ。わ。り。あ。い。い。と。名
中。寄。し。の。り。と。見。い。つ。ま。い。わ。く。用。お。ま。ま。い。つ。り。と。か
吉。之。ま。い。い。そ。ふ。我。り。り。夜。無。橋。と。い。つ。歌。こ。と。り。と
へ。て。あ。い。り。と。ま。り。と。あ。い。と。ま。り。り。と。て。坪。の。類。と。い。ん
た。ま。い。よ。各。別。の。類。か。り。は。情。と。ま。り。り。と。か。い。と。ま。り。り

かゝる後おもひついでに彼浦の女を遊し来し者浦津に
向のちとぬきゆりさわぬ作とて下りのるる合さ
れくかよははれは秀逸の申前儀和のりきると若之例の
物執してせしれも夫の豊とくや他はあらうとつづか
らうらよ母の恋の年よりきりきり極よ。おれ子極思ふぬ
あしはしくと病しりまらうとて後討おせしきけりば
カ法よかきりて日ころのあく病しらぬらわられの恋
一と折あふのさお作きくろあふ。あうくく眉もて切
らりまらぬと。おやしとらと。も母かてとくあみまて
仕とめんといひしと。いとありありあふくあふあふ
おとまはし。いと。お念のよ。裁許よらりてあふが
言や傍りらりきん。見の恋ハあらうと切後いごれら

○斥悪者入部が母賢かりませ

今と書。いふとくは士あり文斥悪の何じハ失て母
むらり。悪良ののつとつ女。父う養とつとて内側利の
殺よくりつとせら。いとせら。人見の恋。あうらう口端よ
しりて切後ありけり。は。は。よとつとてあふ。あふあり
が。身ん夜は。のよ。いとひとく。人ま。せも。せ。内。居
ら。あ。ひ。と。と。り。き。ら。手。せ。あ。つ。ら。右。勢。乃。逸。物。よ。案
て。息。と。も。つ。が。と。地。付。た。れ。も。法。士。志。合。の。場。か。れ。門
戸。と。か。こ。め。敷。と。ら。ひ。く。あ。う。み。ら。り。お。出。入。と。ゆ。り。守。事
た。く。お。の。く。れ。は。ま。り。い。ん。く。の。ま。君。と。ん。り。あ。う。か。ひ
ま。り。よ。り。た。が。い。よ。ん。あ。う。そ。て。あ。と。か。め。か。ら。を。の。ん。で。ひ。え
し。ら。わ。り。く。わ。れ。と。れ。は。よ。り。て。河。と。を。と。と。て。甲。も。ち。け。と

むづろくふ地くろぬさの母いきたりてつゆのや一ひの
つひ。興ぐんばあこまこりし。吾もあつりつりて言てひと
あかりあよもびさいめんといづく。あまあふのめがうり
してやせんこれ人はこころああり。よおのんをなむとま
まもしておのづく。吾かり申あつりんと測とうまふま
ひめて後よこめて吾なり。下おのんを所おまこいお
とうを日夜よこしてまひまうて学あふとつとまを病
まふりも吾よすまが先とかりまきとあ人こ一不忠
乃ともがくといふれをなれともおのづく中庸乃
あふるあふ。吾人いあまじやまびて道よまこいじんれ
とらづく。吾人やあつりんとつと吾ををぢれん
かり。下あまを酒乃かろまこ。吾人の吾とおまふり

君よ老あり。父母よ老あり。思わしての事あり。弟おありの
毎日はあま。く心してつくまふ日も不足して。ねたよお
こころあつりつり。あ人の不吉とをまふあつて。ま
又一年の目と不足して。日およ不忠あま不忠とあつて
ふ。あまあつてこはにつりあまあつて。つとこのたよすまんとあま
物と。又片墨乃何う。衆よのこまのいとあつて。我りこや
し。農氏とかり。力あり。天下たありの時あひは君
おあつて。後つらうせ。忠義といく仕官。徳よ家乃くねあ
こせり。深く祿あふ。あハ我子孫よりそめあもたふまぶひ
非乃のあままひあつる事とあま。十勲はせい。まよひお
あつて。水代がまれなくとも。我のつて恨とあつて。さつ
あのおひいごう。今君は編みあつて。身とつてま



高名大平記 卷之二

前集



高名大平記 卷之二

前集

かりしぬき洗は切後の乳をから浦の女あそく。さひか
 つしちカリびごり。こらぬぬき。かこらぬ乳をく。さひさう
 かあひとかりひいづく。ちんゆり。せとあつふ。力の悪へあゆ
 ともいふ。父の所へ。さあを奪ひて。かこく。死んとねひら
 浦の女。かへん。こら。人をかた。見れ。けて。後。よ。丸
 悪へ。抱。付。て。腹。と。と。ん。と。と。り。か。か。て。声。と。あ。げ。て。さ。う。と
 け。つ。ふ。そ。片。黒。さ。又。小。野。丸。内。志。留。林。と。と。い。ち。ち。ま。あ。ま。の
 ち。う。ま。つ。の。せ。ん。双。方。へ。ひ。さ。う。け。り。中。み。と。織。部。平。宗。東
 と。い。ひ。ま。ら。老。妻。志。力。と。悪。と。あ。て。さ。う。ま。の。こ。さ。あ。く。お。い。は
 ぬ。ひ。さ。ふ。力。の。悪。く。や。う。や。れ。ぬ。と。と。て。な。と。あ。ら。ひ。を。と
 後。せ。よ。あ。け。て。さ。う。く。又。母。と。わ。り。つ。と。い。志。の。後。と。も。老。臣
 とも。ち。う。さ。れ。ゆ。り。我。せ。と。考。と。つ。と。え。ん。と。す。れ。ど。不。忠。の
 ち。と。と。い。ふ。事。の。あ。ら。う。と。い。ふ。と。遠。ま。れ。し。と。い。ふ。と。又。か。ん

さうの志。さう。さう。さう。と。見。て。我。の。さ。の。た。と。ね。さ。う。と。取。と
 と。不。論。ち。ち。力。と。ま。ん。と。い。ふ。と。い。ふ。切。割。の。身。と。あ。つ。く。さ。の。中
 ち。の。つ。ま。り。の。と。て。建。も。中。ま。と。と。ま。さ。う。の。あ。つ。り。これ。ど
 る。と。あ。つ。あ。つ。ん。の。我。死。て。又。と。と。け。ま。し。忠。と。善。泉。の。さ。う。あ
 け。さ。う。い。ん。と。かり。か。り。か。つ。と。物。よ。ら。う。か。り。と。な。く。と。後。り
 け。り。あ。ぞ。あ。り。あ。つ。ん。と。目。と。目。と。見。あ。つ。と。幸。あ。も。た。ぬ
 少。人。の。智。ハ。各。別。の。武。士。乃。子。な。る。や。う。は。忠。あ。り。我。あ。つ。ん。の
 親。と。た。ま。す。わ。ら。う。と。さ。う。り。さ。う。事。と。い。は。や。い。さ。や。さ。い。と
 り。お。盛。後。よ。ひ。び。ひ。あ。つ。る。お。野。丸。内。志。と。又。か。こ。あ。つ。い。よ。い
 い。よ。く。後。と。さ。は。う。と。あ。り。と。い。ふ。人。と。大。将。と。さ。う。り。二。味。回。の
 海。と。わ。ら。う。力。の。悪。友。よ。あ。つ。と。さ。う。の。と。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と

こそわき。あいのりころ一丸のき。ホみんらりりかの悪とがこ
 い。この浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 不義ふわらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 ぶら。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 あり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 よ。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 乃。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 か。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 海野。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 人。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう

中。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 宿。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 ぼ。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 け。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 て。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 た。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 と。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう
 浦。わらり。きくま。浦の女らごもぬ。るる。後とこれ。かきしくつあう

むかしとんを承く何鼻の我らふかときびりんと。一海
 の形すありおろく横もと赤て感一そそくを
 此深くあつらんありはちうけつとらよきあつてぬを
 さむいひとせむひとみ。さあぐ恨だんぢうのやとを
 の何ぞり目のまふとく。神あつとの世物とそつめあつて
 つ味をりあり。

○お思ふつふ思ふはす

今いひし。お思ふ角之とていふ人あり。そのいひたるあつて
 かとて或士かあり。いふあつて山城の玉伏見とていふあり
 といひり。あつていふとていふあつていふとていふあつて
 とのう。いふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 家職とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 一。はされぬ業小月とていふとていふとていふとていふとていふとて
 きつとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 醫術とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 命とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 門の教もいふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 よいふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 世よ。あつていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 四とていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
 よいふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

かへしきあがゆしこりよはぶかへしこが終二女ありをる南を
 ゆしこりより遠もさしてゆれや我病八平金をとりい
 るとむいかにひとむらびきんさきかむとさうりさふと
 やく後の子さしめかゆりく我とつき山科のりかへしこ
 かいあ我ととるぞとつきた。この肉服とりつくと三男と
 んさふいさうもさうりあし。あしと目六平徳列の日はか
 らの中はものよ同。されど浦の女が位而とあひの縁らつと
 あんぞまじいも今中まじ里ありの者さつをこの回あし
 白後とれも志のびくよちかしてとめさふとあつらひら
 りてからくとあまあありて。南さうらほよとあて。まはあり
 強い身とらふとつじみあて。乳とさめてはこれと後二女あ
 りていりてまもま書あも書うらじまはあしと志らりのつたり

高名太平記

○卷之二

場はなまはるるあはれお良若貴とぬり

小島長ねあつ不長あして監り

二解をわくた湯の赤豆を清き清かど

わくき清がねあふりてまひれ若とかり

史記の化製強徳はり

吳の王史を越王の敵と因より

史記を強忠儀にりて英貴とかり

久留丹三郎十女めく後心あつ事

梅摩より近所丹六喜子れんとためひす

不思強の嫁わりて後傍事とことらひす

足輕中吉左衛門忠常れ公あつ事

物又傳事文をゆゑて物とて付よす

落城乃別士卒らつてれす

○かりの谷を食ふ事小出せす事

今と昔。坊の谷を食ふ事。今と昔。坊の谷を食ふ事。今と昔。坊の谷を食ふ事。

出入。あつひひひひひ。出入。あつひひひひひ。出入。あつひひひひひ。

い。辰かひのい。い。辰かひのい。い。辰かひのい。い。辰かひのい。

え。来るんを果すのい。え。来るんを果すのい。え。来るんを果すのい。

う。うんかり。う。うんかり。う。うんかり。う。うんかり。う。うんかり。

か。かと思。かと思。かと思。かと思。かと思。かと思。かと思。かと思。

よ。

し。

ひ。

れ。

高田三郎

二

前集

て日影よりあつととるれをわらひのうぬげ。おれは
 形ひの影もくも出入の邪魔やまぐし。所詮とこれと
 さいよの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 ぬまぐ。髪ひの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 と入門とわらひのうぬげ。わらひのうぬげ。おれは
 祿ひのふ。某の影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 自ここの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 みく。金子の影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 いら。金子の影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 その金子の影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 りと人とも影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 世よと。二三人おれ。わらひのうぬげ。おれは

ひの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 いらぬと人とも影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 かう。下されぬ影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 女れよの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 し。この影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 己一藝わらひの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 りらひ。軍法わらひの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 とわらひの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 とく。この影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 の影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 わらひ。この影もくもく。わらひのうぬげ。おれは
 一わらひの影もくもく。わらひのうぬげ。おれは

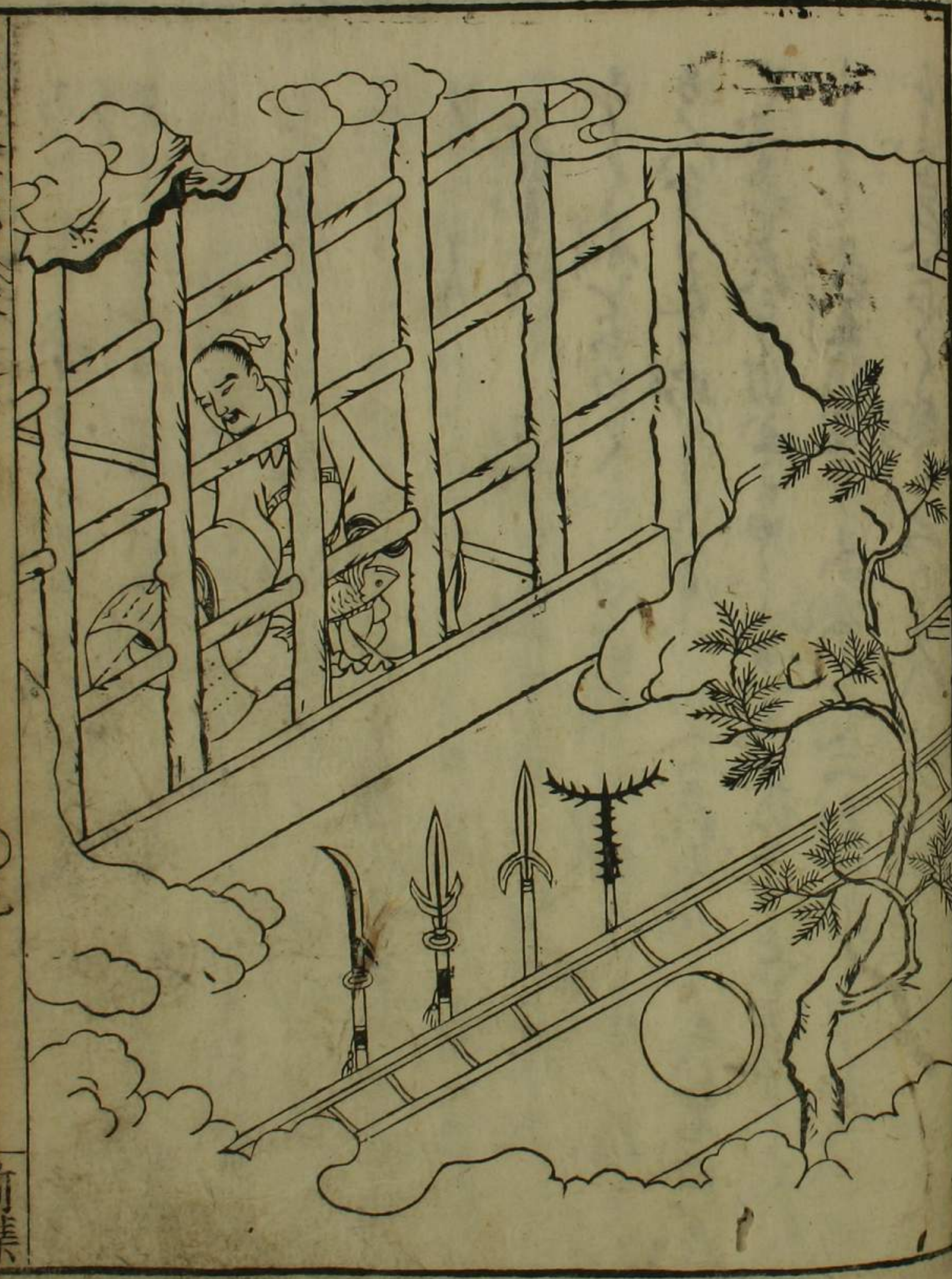
授とくともうりていふくお言ひかゝりていふれ
 也。彼中申す何事もまゝに承りていふ。出立のありよは
 つて女も人もあつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 ともいふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 家中のいふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 て。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 れ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 家。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 い。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 し。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 は。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 う。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。

ち。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 執。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 人。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 一。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 そ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 わ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 頼。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 の。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 そ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 あり。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。
 う。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。あつていふ。



なりぬ智徳の人たりたれども軍利をくして越王の
 是のちよ固りあつたなり。臣子番長をひいてつけら
 今越王の軍利をくして越王のちよ固りあつたなり
 わるあふ。内軍のむくは討つるのむくは討つる
 小澤素平とて。兵のあふは。越王のちよ固りあつたなり
 君のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 すり。兵のあふは。越王のちよ固りあつたなり
 い。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 や。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 の。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 ち。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 惟。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり

見ぬ。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 て。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 室耳。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 々の。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 い。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 ち。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 ち。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 と。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 か。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 けれ。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 ち。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり
 の。越王のちよ固りあつたなり。越王のちよ固りあつたなり



前集卷之三

前集

まじく。軍勢とてめ防めりううけんこれをもて
んまみまぬく政ありをたれ一人ものて命よきこ
ぶまのすくばわふ兵を乃軍ありひまけ。兵王越乃
ためよりこりあり。こり向渡命とたひひ一懸て今ま
ぬ我とたひけ脚し多と。秋さあとも越さるんま
たて殺して多年の憤とせんしあひさ。これをもひ
ぬふ。荒蕪と忠よりあく。二夜せよづつみとゆこれ
ひ夜ありて賞して大かや。大玉とあてふ。越さる
こととせんしあひさひくた。荒蕪ささすして。年
程と祥選し。ささ佐とぬしなり。そのうりふあは
りけて書あり。功かり衣選く。が選く天のあり
といひて。又湖とらあよ。このり高とかりて。せ
ゆりあり。高とせゆりあり。あり。史記のりま。かん
えこのり。今ひ志のひれともの。貨殖と志とていひ
し。の。君がましまん。心と功とく。あてめて。城
あり。別と。後勢とあり。く名選これと今ひ。あ
と。の。とて。世事。よんて。つと。よ。あ。これ。く。と。い
せ。の。り。と。せ

○矢田丹の良忠義礼書

今ら者。近所丹とく。梅村。よりありくとのあり。
経脈とあり。よひ。かり。う。その。あ。れ。と。ま。や。め。あ
う。た。の。と。あ。り。と。ま。これ。あ。ま。く。と。あ。り。ふ。出。入。て。か。や。と
く。あ。り。な。れ。と。ま。い。か。の。ひ。か。ん。ま。い。と。も。あ。り。は
れ。一。人。も。つ。き。ざ。り。と。さ。た。く。の。家。と。の。念。と。あ。り。か。り。の。り

此とひひんと。まやみと控つてもなく。ゆふひ
 されど。奈の母の。しん。母かされきとて。智あり。智あるも
 の。惟く。あゝ。あゝ。ん。せん。ん。の。之。室。の。夜。合。信。成。り。の。中
 けし。後。様。あ。乃。二。つ。て。あ。そ。末。ん。今。又。こ。の。之。室。成。る
 忍。は。後。ま。あ。り。と。春。山。の。や。ま。と。あ。そ。ま。し。う。逆。ん。の。と。あ。あ
 小。ま。忍。と。付。て。彼。之。室。の。ま。あ。り。と。絶。され。ば。又。は。い。こ。で
 けり。ひ。り。り。と。ま。あ。と。控。つ。て。あ。そ。ま。し。う。逆。ん。の。と。あ。あ
 小。ま。忍。と。付。て。彼。之。室。の。ま。あ。り。と。絶。され。ば。又。は。い。こ。で
 さ。あ。い。や。し。く。と。も。男。子。の。あ。あ。と。控。つ。て。あ。そ。ま。し。う。逆。ん。の。と。あ。あ
 ひ。の。あ。あ。り。あ。ん。と。老。る。母。と。あ。あ。り。と。控。つ。て。あ。そ。ま。し。う。逆。ん。の。と。あ。あ
 の。あ。あ。り。あ。ん。と。老。る。母。と。あ。あ。り。と。控。つ。て。あ。そ。ま。し。う。逆。ん。の。と。あ。あ
 あ。あ。り。あ。ん。と。老。る。母。と。あ。あ。り。と。控。つ。て。あ。そ。ま。し。う。逆。ん。の。と。あ。あ



高名正言

十八

前集

あひなごをそぐひて。てび父よめらつあんとせんとし
と。と切胸の才とりつと。万里のわたりもあつぬふさ
らんす親づれし。船よまらみとあり父と母乃こまひつと
いっ筋とそものて。父のゆくゑとあつひさくいとつと
だもれむ書た父の書とつひ。志老のつとつとつとつと
帳よりかひあつ。意と帳せんとして。衣衣の帳よいて
つとつたれすとつとつと。びつとつとつとつとつとつと
後つとつとつとつとつと。やふ語りひり小丹六つとつと
真さめつとつとつと。何とつとつとつとつとつとつと
との肌とあつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
何とつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
やとつとつとつとつと。丹とつとつとつとつとつと

あつとつとつとつとつと。何とつとつとつとつと
海とつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
いへつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
まらつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
らんつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
とつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
りつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
揚指とつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
てとつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
らんつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと
とつとつとつとつと。何とつとつとつとつとつと

つんとあつてもおこら。さけおのりいん。まねんつかあてん。こ
とつて。主君へ乃忠と申せん。おろかれば。たふさる。てを。障
を。ぬく。ゆと。障と。さけ。して。い。さ。た。れ。と。徳。を。さ。め。め。く
さう。めん。い。さ。め。さ。く。た。い。さ。と。せん。た。い。さ。つ。あ。ぞ。不。孝。さ。の
ま。の。さ。り。う。ら。の。り。ま。さ。い。だ。ハ。ま。ん。大。が。さ。の。ち。ん。か。と。さ。り
い。や。他。の。ま。し。り。親。を。人。の。あ。や。ま。り。親。め。わ。と。の。ま。い。こ。さ。り
い。ね。汝。う。た。き。ま。め。て。して。他。父。親。乃。不。孝。の。ゆ。え。と。す。り。ぞ。お
の。ま。し。と。考。の。内。お。障。と。申。さ。す。七。生。ま。す。の。地。苗。と。と。な。の
い。ら。と。け。り。ま。い。を。た。ち。あ。つ。て。い。か。く。さ。さ。り。め。め。め。り。わ。と
こ。ま。し。く。め。障。と。申。す。若。よ。し。こ。い。ひ。こ。め。め。障。の。り。た。り。
一。日。二。日。と。して。二。障。申。お。か。す。い。ま。ま。く。た。い。の。り。と。い。は。と。
い。い。に。お。障。の。り。こ。ん。た。い。の。り。の。り。あ。り。て。さ。お。め。め。め。り。た。ら。お。

中。の。疾。士。と。い。ふ。と。わ。ら。ん。こ。い。ふ。こ。い。ふ。と。の。い。ひ。と。い。ふ。と。い。は。
ふ。よ。う。後。え。の。い。夜。の。さ。と。か。い。く。ら。と。い。は。り。不。孝。と
の。ま。ち。あ。つ。て。死。神。の。つ。と。ま。て。ま。の。よ。く。い。ふ。い。で。お。え
さ。さ。く。と。れ。ん。と。障。と。申。す。さ。ら。に。お。障。と。申。す。と。い。は。り。い。は。り
い。海。に。め。ま。ち。あ。つ。つ。と。い。ふ。と。い。は。り。海。と。他。父。親。乃。命。あ。ま。り。こ。い
は。す。と。て。死。と。い。ふ。と。申。す。の。体。内。乃。ち。あ。つ。つ。と。い。は。り。い。は。り
よ。お。ま。え。と。い。ふ。と。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り
や。し。い。わ。ら。ん。お。障。と。申。す。水。も。た。ま。い。と。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り
お。ま。り。ま。い。と。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り
さ。ら。に。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り
さ。つ。と。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り。い。は。り

高名太平記

高名太平記卷三終

高名太平記

○卷之三

浪人の書あまふ出ぬがひよ義とらるる

侍乃公よよわて寵をよわの女れ

海執よそ老義ふらとこわあ

不破公左衛門酒義ふらり一車

味下よ火ふりわじ言休云してと人

目君ととと云一車

宰人らありと後亡君乃廟あよひ

前集

御拝氣とPかびくる

忠儀よりりて科とゆらさけし

茶の湯者不意をたれ義とまらる

矢川三平太氣とてるどろくゆら

落城の村人れ命を改らる

高名太平記卷之三

○まゝ人の女たがひは養とまらる

今も都々何人の妻女まのこあよまどあて秋の節

まつらる。内庭れたりやなま所人あり一人の種の中

方とつひ。今一人の種の中かごとくあり。二人かぐ宮儀よく

よらびらるふわくとき。女穢のこさるあうわらくかんと

りお奥でされ氣よりりて。四かつくとさるれど。秋系

乃そのかれをも。ゆまからるごとそのそあ乃内同あを

とゆりもろゆく。どのづう傍家ららそあうゆれ利殺

のんかかれを。そぬゆてるもなきて。目とかさひくら

あよ。あや夜時ぬられて。本のる乃月わくくとえん。こい

くゆのづうあ。それさびさいわくがさめひて

高名太平記卷之三

三

新

四くさう四ころとせうれひとちうかこせあひけり
 より。よくの四まふしやちりけるかてか時を際
 なきこり。後乃四かたれ密よとて。四あまりりしお種
 れ四これとあまこりあて。ちうう後の四こり給
 毎よゆこ何れもまてあやうお。よごてか松をゆく
 とごて。むそふ後れ四このそふおかり。さてもは
 だごうこれ四わりの由とたまつせよ。何とらんが死
 四事のさあぬゆらちと四四とけ何とせうて。ま
 ごと人ほてあて。四あまのり次とをよつたり。もの
 ゆんばもや。重をも四身とゆあを。身乃を四つ四事は
 せんごのまふもく。後りれむらつ後まらるる人。うん
 かの世に後りりごおんかかまらとゆふ。たよん

四まふの四別あごをまびく。興これ四比ごか
 と。四板つめあつよし。さあごもお果の四八堅して妻
 トわご。かこうしごあすくして乱にらうとごや
 ひごの人もしてさあぬれと人も貞節乃乃事
 心ぐあごのさあごも。これむのま何とまご。じり
 まうかうかりねひよ。よりや四まふの今れ四ころよ
 て。中くさあうれりあづご。あわつ縁と。四若れそ
 毫らうし。さふ付ての。みごりうらうびかり。まゆ松
 よわの。ちのひあせゆ。後んらあ。ア。を。破
 乃四こ。ほくくとまあごり。うれと。そ。毛。種。の
 四この。我。出。出。と。その。ち。の。ひ。て。あ。る。後。と。あ。か。ら
 まわし。四と。ば。よ。ゆ。四。さ。う。さ。の。教。あ。ぬ。身。士。の。家。小。生

高名大言金卷之三
 三
 前



さうりくしなまじりたひつしましなましくくうらふかみひひん
つらうびりりいさぬのひつそく後ひひひひひひひ
他よまふおらうゆいひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
もあさゆいひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
君のこめおれあ恥ありまきり矢ひひひひひひひひひひ
ぞしそかひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
きふひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
あういひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
さ尾もなやわおひひひひひひひひひひひひひひひひひ
あしおれいひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ゆひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

めくひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
てとくれぬあてしひひひひひひひひひひひひひひひひひ
うひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ややく興ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
おひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
とひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
されたまわいひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
あひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
らひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
よひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

付り。新く申すとありしけり。はやくはせらるれ
と。一あるかわらぬものなり。二ももふらうだす
真より切て出りしは。おとせむ。新あそ。城のわんま
と。あそりけり。

○不徳なき徳の忠義ありき

今とひつ。不徳なき徳の忠義ありき。そのるんを大守ふ
はてた勲のうめひかり。主人ひ人の忠義ありて又徳
房のまこととせし。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
つぬんか。百八拾石乃強と。いふは。いふは。いふは。いふは。
まらふ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
ありて。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
年が。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。

のらん。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
つぬ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
まの。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
へ地。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
や。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
し。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
亭。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
よ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
り。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
あ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
さ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
と。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。

ありあひしうなつかぬお慰はよろこびありてされく
 け恩愛とよろらあてあお給ふもさうさうさうさうさう
 こもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ちんぱかりぬとひさくやなわとふさありはあま
 ひあかりて主人のあかきふさあり主人られさ
 あかきそいおさうさうさうさうさうさうさうさう
 と選か。新系乃ものと引わらあお依れ乃とさあ
 とぬく四あみありて。美屋もやさく四あれと後
 ちんぱくお人のさうさうさうさうさうさうさうさう
 してけり内は主人あおさうさうさうさうさうさう
 ためふむさくと付さあひぬ美屋つひさうとさう
 く。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



高橋左衛門
 巻之三

わが身をそぐひなきこと。出耳とて言ひたのるふと
主人の世に其のさき人故一人をそとともあづかるをいふが
のふまじしりてさき人いふとて仕方の極みあがりたれ
はあよあまのしとてとわくはしき。此のふたつよりふた
ひゆゑとてさき人ゆゑのいひたり。御ふあまをなす。主人
のふまじしりて仕合のつとめなり。念これあはれ別よ
己のあまはさき人のつとめなり。念これあはれ別よ
れは念これあまのつとめなり。念これあはれ別よ
此のふたつよりふたひゆゑのいひたり。御ふあまをなす。主人
のふまじしりて仕合のつとめなり。念これあはれ別よ
己のあまはさき人のつとめなり。念これあはれ別よ
れは念これあまのつとめなり。念これあはれ別よ

来りてさき人の世に其のさき人故一人をそとともあづかるをいふが
主人の世に其のさき人故一人をそとともあづかるをいふが
のふまじしりてさき人いふとて仕方の極みあがりたれ
はあよあまのしとてとわくはしき。此のふたつよりふた
ひゆゑとてさき人ゆゑのいひたり。御ふあまをなす。主人
のふまじしりて仕合のつとめなり。念これあはれ別よ
己のあまはさき人のつとめなり。念これあはれ別よ
れは念これあまのつとめなり。念これあはれ別よ
此のふたつよりふたひゆゑのいひたり。御ふあまをなす。主人
のふまじしりて仕合のつとめなり。念これあはれ別よ
己のあまはさき人のつとめなり。念これあはれ別よ
れは念これあまのつとめなり。念これあはれ別よ

射面しけるふかき湯つぐいさく。さそくへあつたふねに
 いさしきあつてく。おそれ入るひととつろそやハ柱あめぶ
 福んゆんそころの西あつた。西あつたのさるひとひ
 とあふ。ゆのせんくめあふまじ。やましくと下されゆす
 今さうもさあつた。實に大なるあつた。それつと
 てまあつた。や名の馬と行りのひあふ。それさくはつ
 の男。あつたの馬。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 ひささく。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 池。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 それが。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ
 あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ。あつたのひ



のわりのしくも。せん中馬はかぬはかぬ。あつらんれ事し
 らんと定り。なればさくらんぐさくらんぐのみまはりてはち馬
 とはつけり下されぬ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 とくさうり。さうり。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 下されぬ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 わきま。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 公で。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 時の不便と。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 なり。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 たり。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 ともいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 高橋大平言合。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ

し。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 くい。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 が。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 と。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 し。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 教。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 るん。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 物。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 ら。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 一。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 一。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ
 一。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ。いふいふ

也。まづいふおちひはく。昔うのべてひたり時三平
 かうとていふとく。とていふ。とていふ。今此の云ふは
 しては。それ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 とうと。命。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 とき。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ぬま。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 て。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ぐ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 えて。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 しく。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 いて。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 お。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ぐ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 とい。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 け。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ら。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 か。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 の。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ひ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 よ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 の。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 り。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 首。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。

おろく。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ぐ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 とい。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 け。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ら。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 か。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 の。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 ひ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 よ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 の。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 り。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
 首。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

高名太平記

○卷之四

八田共助他の契約違背と恨て病死す

同名共七右衛門尉とて父と孫とす

英父公とて終く忠義とつくとす

杉野花頼義経あふ討て軍配替す

楠と義貞とす 此れや川下りす

正成らへん事

娘と軍代事 孫養うす

呉王國周旋... 軍法と見えぬ事

帝北紀百八十人と出でて勢をうけたり

金思傳又主人の歌と祈りあり

僕源助也言なり

太平記傳換りなり

傳又... 後傳... せりたがひよ義とありなり

む村の節源助... せりたり

歌村の後主人の約束... 源助殉死の事

高名太平記卷之四

○八田父子忠義其事

今いじり。八田共助といふ侍あり。さう太吉お仕へて。勤定後と... 一揆の堂といひし。...

けり。あつして家申れども。宗政早き。日ころ極兵丁寧
 り人。と。我目よ。うかん垂。う人の。あま。あま。いの。さり
 り。あり。と。何の。そ。人。面。敵。ん。と。と。ね。わ。ら。人。の。皮。ひ。つ。ら。か
 高。性。そ。う。い。く。人。と。漢。合。ま。ひ。し。敵。と。つ。ま。の。を。付
 き。す。や。い。さ。か。の。れ。も。む。と。か。り。や。強。い。の。い。そ。い。て。遊。つ。ご。
 と。を。力。あ。つ。り。け。ん。と。ん。あ。せ。い。さ。や。一。十。八。夜。か。り。け。り。
 又。う。たり。く。ふ。と。か。り。つ。さ。こ。の。四。極。丸。の。ま。さ。さ。い。し。う。一。兵。五
 圓。周。う。縁。氏。は。娘。子。軍。と。つ。く。見。と。つ。け。と。か。り。や。
 せ。れ。ど。あ。の。た。ら。ふ。う。て。お。ま。さ。が。い。て。あ。ん。く。お。ま。の。ま。と。見
 こ。あ。り。ぐ。人。や。して。お。ん。ぞ。あ。ん。勤。う。ら。の。あ。ん。や。これ。い。と。人
 一。太。大。將。ね。お。乃。卒。家。う。い。い。本。常。と。誅。伐。あ。り。け。り。け。り。
 浦。海。老。の。死。ね。は。じ。つ。い。て。將。う。ら。の。の。い。ら。う。う。あ。り。う。ら。と。ぬ
 ぬ。さ。く。人。の。と。將。う。て。の。誅。軍。た。と。う。定。は。し。と。く。さ。く。な。ふ
 との。や。ん。や。それ。を。戦。場。よ。が。し。き。あ。り。う。あ。ん。と。あ。い。さ。た
 づ。ら。て。う。う。軍。と。さ。さ。ま。と。あ。ら。れ。日。く。見。才。な。れ
 一。も。か。の。義。將。う。ら。軍。の。の。和。名。よ。ま。る。也。あ。く。也。い。謀。く
 く。と。を。強。く。他。一。將。う。ら。の。の。共。よ。さ。た。さ。ら。て。軍。一。村。合
 切。あ。い。と。この。ま。ん。の。不。免。の。頂。上。う。ら。人。一。自。身。ハ。後。は。い。ら
 へ。て。さ。た。け。の。老。と。の。高。く。な。ふ。免。と。と。見。軍。乃。は。法。以
 ぞ。ん。一。敵。味。方。の。強。弱。と。と。う。く。え。く。い。あ。い。て。を。軍
 一。え。揚。ま。の。か。ん。あ。る。う。こ。う。づ。う。と。を。力。ら。ら。な。ふ。あ。ま。て
 ま。い。そ。と。の。こ。ま。い。け。り。と。く。や。あ。人。の。將。う。じ。つ。い。て。者。列。の
 敵。訓。い。ら。と。か。り。あ。う。う。官。頼。ん。あ。く。ま。あ。い。義。強。ハ。あ。り
 ん。の。別。方。り。い。ん。か。り。令。一。は。浦。之。物。勇。氣。を。と。回。人。と

けり。あつして家申れども。宗政早き。日ころ極兵丁寧
 り人。と。我目よ。うかん垂。う人の。あま。あま。いの。さり
 り。あり。と。何の。そ。人。面。敵。ん。と。と。ね。わ。ら。人。の。皮。ひ。つ。ら。か
 高。性。そ。う。い。く。人。と。漢。合。ま。ひ。し。敵。と。つ。ま。の。を。付
 き。す。や。い。さ。か。の。れ。も。む。と。か。り。や。強。い。の。い。そ。い。て。遊。つ。ご。
 と。を。力。あ。つ。り。け。ん。と。ん。あ。せ。い。さ。や。一。十。八。夜。か。り。け。り。
 又。う。たり。く。ふ。と。か。り。つ。さ。こ。の。四。極。丸。の。ま。さ。さ。い。し。う。一。兵。五
 圓。周。う。縁。氏。は。娘。子。軍。と。つ。く。見。と。つ。け。と。か。り。や。
 せ。れ。ど。あ。の。た。ら。ふ。う。て。お。ま。さ。が。い。て。あ。ん。く。お。ま。の。ま。と。見
 こ。あ。り。ぐ。人。や。して。お。ん。ぞ。あ。ん。勤。う。ら。の。あ。ん。や。これ。い。と。人
 一。太。大。將。ね。お。乃。卒。家。う。い。い。本。常。と。誅。伐。あ。り。け。り。け。り。
 浦。海。老。の。死。ね。は。じ。つ。い。て。將。う。ら。の。の。い。ら。う。う。あ。り。う。ら。と。ぬ
 ぬ。さ。く。人。の。と。將。う。て。の。誅。軍。た。と。う。定。は。し。と。く。さ。く。な。ふ
 の。の。や。ん。や。それ。を。戦。場。よ。が。し。き。あ。り。う。あ。ん。と。あ。い。さ。た
 づ。ら。て。う。う。軍。と。さ。さ。ま。と。あ。ら。れ。日。く。見。才。な。れ
 一。も。か。の。義。將。う。ら。軍。の。の。和。名。よ。ま。る。也。あ。く。也。い。謀。く
 く。と。を。強。く。他。一。將。う。ら。の。の。共。よ。さ。た。さ。ら。て。軍。一。村。合
 切。あ。い。と。この。ま。ん。の。不。免。の。頂。上。う。ら。人。一。自。身。ハ。後。は。い。ら
 へ。て。さ。た。け。の。老。と。の。高。く。な。ふ。免。と。と。見。軍。乃。は。法。以
 ぞ。ん。一。敵。味。方。の。強。弱。と。と。う。く。え。く。い。あ。い。て。を。軍
 一。え。揚。ま。の。か。ん。あ。る。う。こ。う。づ。う。と。を。力。ら。ら。な。ふ。あ。ま。て
 ま。い。そ。と。の。こ。ま。い。け。り。と。く。や。あ。人。の。將。う。じ。つ。い。て。者。列。の
 敵。訓。い。ら。と。か。り。あ。う。う。官。頼。ん。あ。く。ま。あ。い。義。強。ハ。あ。り
 ん。の。別。方。り。い。ん。か。り。令。一。は。浦。之。物。勇。氣。を。と。回。人。と

了るほど。一旦のいりかゝい怒りつらまゐるまゝに。淋而
 驚くまゝ。黄泉のつとて。ちりやまじり。先づこゝろ
 と舞られかゝり。一味同士のさかすかと。深く謀り
 忠と探りて。そのうらよ。家長浦之助が。飯へをさそふく
 ら。怒と見さすも。そのうらよ。おもひ。あむたり。かゝると。理
 とはめを。謀り。く。真も。さく。さ。ゆりぬ。を。め。り。や。く
 ら。と。さ。め。ま。い。く。二。條。の。ま。の。ま。う。か。へ。ら。ひ。て。る。な。ま。ま
 と。ま。え。ん。と。お。ひ。の。く。さ。と。び。い。り。ふ。氣。と。よ。ら。り。り。
 つ。の。よ。ほ。れ。か。く。死。よ。の。そ。み。く。そ。七。と。ま。の。こ。め。と
 い。れ。し。も。不。幸。あ。り。て。毎。と。く。と。死。と。つ。あ。と。と。は。我
 この。こ。う。と。修。て。あ。い。ど。ま。君。の。仇。と。報。し。ま。ま。黄。泉。の
 ち。い。ま。と。く。べ。我。ま。ま。と。ま。怒。と。か。り。て。は。り。ま。い。れ。



高名大平言合

前集

そひらうとそては、
と暇とい、
息絶あり、
父を、
た、
や

○娘の軍あり

共てり、
小孫、
P王、
まの、
ふ

な、
ん、
か、
ま、
あ、
わ、
申、
し、
あ、
心、
乃、
か、
た、

忠がゆかりをせりしむ。其まはるに死あひをて孫
 まと禱して真乃天將軍や。先初の方後世と
 かりの。即と成さる人。其の必晋乃必まうくと何も
 て。威どろろをれも。ひんり彼孫まがうると事よ
 了かうりとせ。されど今家は浦之分方より一人
 物と妻をて。世のあふ年とかりひ。公ももかたら地
 一揆乃堂とらみ。かごと。ひんらうりあうゆへ。壇
 無事あてらむとて。く遠者す。か。共せうらよ
 ひけらうり。又といさしうみひ。とふらうり。孫氏を
 とらひひ。あう。却てらうり。あう。孫とらひ。ま
 勇あわうり。孫ら。世の孫孫未孫乃ものやう
 かり人よもあてられむ。孫とせむ。かれんも。ねらう



あつらんといふんまゝにいつひくろかたへし。

○つらから傳ふ事、天下人休物と名をける

今ハひし。金器傳ふといふ人あり。欲と祈しんをなす。あ
み。才とひそめをたと隠して。うくれありたきう。び人幼
女。わびゆく。はつひさる。僕よ。源ゆといふそのありさん
わら。年。傳ふらう人の高きも。別。深とかりひて。傳ふも
いと。ぬと出さる。源ゆも。いされがてて。く。浪人。傳ふ
と。かりても。いよく。た。資も。く。人の。標。伝。変。ひ
して。い。は。く。す。て。煮。け。さ。ぬ。く。ひ。主人の。先。途。伝。見
や。け。ぬ。て。ま。つ。く。んと。肩。伝。と。ふ。む。と。ひ。て。若
し。も。かり。ん。か。氣。ち。た。く。わけ。れ。と。つ。く。と。と。か
ま。び。つ。て。大。石。の。勤。仕。ま。つ。と。の。を。ま。し。め。傳。入。か。か

と。かり。ひ。まん。あ。つ。回。傳。物。と。逃。つ。け。被。り。又。く。浪。人
と。かり。て。あ。か。い。ふ。さ。ぬ。よ。い。傳。乃。ま。は。く。く。を。も。づ。い
や。い。お。よ。と。と。ろ。く。と。い。ん。と。も。あ。く。わ。り。つ。さ。乃。標。ひ
き。あ。ま。れ。し。逃。こ。被。ま。ま。地。あ。も。ま。ま。ま。何。と。ど。身
と。く。す。つ。ぬ。り。を。お。業。い。ぬ。い。伝。う。務。く。業。の。伝
し。の。も。も。三。年。の。業。よ。膝。伝。屈。して。時。而。と。ま。え。ん
と。かり。あ。かり。あ。う。れ。し。ま。す。つ。の。拂。看。今。ま。て。より。ん
お。あ。り。て。同。く。お。業。く。ら。浪。人の。身。れ。果。さ。ら。と。も。と
お。り。ひ。つ。ら。あ。く。ゆ。も。後。な。れ。ど。その。方。事。ぬ。い。ぬ。と
も。え。ん。と。か。て。て。後。ま。も。あ。ん。の。ま。し。か。く。と。は。風。情
と。かり。て。て。ぬ。り。事。さ。ら。は。か。こ。り。つ。さ。め。つ。ぬ。が。う
あ。ら。う。く。被。を。ら。う。く。あ。ら。う。く。え。ん。も。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま

あつらんといふんまゝに

一〇二

前集

ありしをよむ。命とす。その事とをす。い
 へ。一編のまじり。く。身やと。教をたや。う。まひ
 と。し。そのも。め。り。り。か。と。母。よ。ほ。が。れ。く。え
 と。形。か。ん。と。ま。し。ひ。せ。だ。う。つ。い。あ。り。里。よ。と。み。あ。ら。れ。さ
 成。す。よ。り。も。明。う。奉。月。の。事。あ。り。ひ。か。ぞ。た。ん
 わ。と。と。さ。あ。い。れ。よ。と。い。は。さ。た。ら。て。は。信。も。せ。ど
 あ。く。ま。り。り。て。我。は。た。く。よ。と。あ。く。と。い。い。せ。り。そ
 志。乃。一。編。と。源。助。よ。り。く。り。お。源。助。も。あ。ら。い。と。い。ふ。の。ハ
 此。の。か。し。ひ。さ。か。う。ま。る。く。あ。い。さ。り。ぬ。く。ま。は。切。雅。の
 ち。し。わ。り。あ。く。う。と。と。あ。れ。あ。て。ま。う。と。ど。あ。け。れ。神
 神。の。ま。く。お。サ。マ。の。り。く。り。の。意。と。う。け。は。ま。く。う。に。い
 だ。と。う。あ。う。よ。は。源。人。あ。そ。と。う。あ。く。の。は。若。房。か。ま。う
 よ。つ。て。も。あ。と。う。か。ま。え。び。命。と。も。く。も。ま。と。今。う
 ま。い。心。母。よ。う。あ。て。ま。う。の。慶。長。と。あ。わ。て。勤。仕。と
 と。ん。と。ま。ん。悟。り。夫。林。乃。照。流。も。あ。と。く。ま。ま。も。ま。い。ひ
 り。あ。く。い。今。う。り。も。ま。と。う。く。な。り。あ。く。と。あ。り
 へ。く。心。氣。つ。り。い。ま。い。あ。れ。く。あ。わ。ん。か。う。ハ。方。と。匠。ま
 小。せ。れ。り。り。と。い。ふ。ん。知。く。ら。と。あ。ま。ひ。く。信。お。揚。成
 屋。過。山。乃。類。と。さ。ら。し。て。も。此。一。人。の。四。事。ハ。西。と。く。み。う
 づ。か。を。は。い。あ。れ。い。つ。い。あ。ん。あ。ま。と。う。つ。ね。く。ま。い
 づ。一。生。の。天。も。い。ま。あ。そ。と。か。こ。と。が。た。後。よ。れ。中。く
 い。ぬ。ら。ん。き。親。ら。あ。わ。く。と。信。あ。ま。い。の。あ。う。さ。う。と。い
 杉。毎。く。さ。ん。う。下。膳。お。ぐ。と。ま。あ。け。を。う。云。つ。の。世
 あり。と。う。く。と。い。ふ。も。あ。ま。と。く。つ。し。後。を。れ。と。い。ふ

海もくつらり一感恨もひかてすてふ拂衣しそふ
 うりてはいふももがひよりなる事もかたしを心
 うきひきひよりと一族の方よきものよりとらうく
 勢もとうりんとあひかりされを浪人の方と人うや
 あのをほめつらうのらとやあまうりて下人までせり
 つま人のかともいふしされむかいてぬくつみかりと
 かるよ源助あまうく神と勢よとあて激うりて
 まていいてより下されゆる方ふらうての面目もせんか
 くもいふ世よあうくて常とせあふ対ハト人となり病命と
 けりてあてもうとて尾羽とつらとせあふ対ハ捨てゆりゆ
 とせりの号もゆ対いそらりの名名とあひかりけりゆ死
 ころもいふかはるうとこをなてゆんさうがて見ハ高橋乃ゆ
 りゆとて。たふう不あなもゆやと。わりりての由何とてを
 なてゆんまうまうゆめくつらとて。いふまの才と此一族のゆ
 へとゆらうんいゆめつともゆゆし。此代の義ゆらうもゆゆつ
 うまりのゆんい。毛髪ゆともいゆとも。あうよとあまう
 此うゆあまてゆとも。ゆ追殺の因にされゆめも。いふよと
 さうし物々のゆ是ゆけ。ゆんゆやうは殺ゆ。ゆゆ人の
 才ゆたの義。ゆせよあまゆゆま。只ゆゆゆの義ゆゆ
 ゆりかてゆゆゆゆゆと。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 熱秋のゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 源助。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 才ゆかりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

海もくつらり一感恨もひかてすてふ拂衣しそふ
 うりてはいふももがひよりなる事もかたしを心
 うきひきひよりと一族の方よきものよりとらうく
 勢もとうりんとあひかりされを浪人の方と人うや
 あのをほめつらうのらとやあまうりて下人までせり
 つま人のかともいふしされむかいてぬくつみかりと
 かるよ源助あまうく神と勢よとあて激うりて
 まていいてより下されゆる方ふらうての面目もせんか
 くもいふ世よあうくて常とせあふ対ハト人となり病命と
 けりてあてもうとて尾羽とつらとせあふ対ハ捨てゆりゆ
 とせりの号もゆ対いそらりの名名とあひかりけりゆ死
 ころもいふかはるうとこをなてゆんさうがて見ハ高橋乃ゆ
 りゆとて。たふう不あなもゆやと。わりりての由何とてを
 なてゆんまうまうゆめくつらとて。いふまの才と此一族のゆ
 へとゆらうんいゆめつともゆゆし。此代の義ゆらうもゆゆつ
 うまりのゆんい。毛髪ゆともいゆとも。あうよとあまう
 此うゆあまてゆとも。ゆ追殺の因にされゆめも。いふよと
 さうし物々のゆ是ゆけ。ゆんゆやうは殺ゆ。ゆゆ人の
 才ゆたの義。ゆせよあまゆゆま。只ゆゆゆの義ゆゆ
 ゆりかてゆゆゆゆゆと。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 熱秋のゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 源助。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 才ゆかりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

高橋大正記

十三

前集

上りてちやいひの道はちかき人をもたせぬかゝる
 ことなきもたせぬにむかひの道はつらもたせぬも
 事なきもたせぬの道もさへくまもたせぬもたせぬ
 うけつゝいあ。きんねもたせぬもたせぬもたせぬ
 うきあやむいあひとまもたせぬもたせぬもたせぬ
 ありけ存念あるものまもたせぬもたせぬもたせぬ
 とたもたせぬもたせぬ。あつたのまもたせぬもたせぬ
 せしあひのひとあつたあつたあつたあつたあつたあ
 うきあひのひとあつたあつたあつたあつたあつたあ
 むびすいはいあつたあつたあつたあつたあつたあ
 かつてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 もとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ



高名本平

の浪よむせひかり。さそい迎多しあひきり。傍の浪くも
 或三人よむせ太の浪才とす。さそい源の浪もさそい
 まり小人くは撲手とす。徳物とい中ふらひか。さそい
 その方より死入るもんとい。さそいありて。さそいさそい
 不その方よりい。さそいさそいさそいさそいさそいさそい
 さそいさそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 行いさそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 くれ。源の人の列はさそいさそいさそいさそいさそい
 け。さそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 汝いさそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 れさそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 をつらさそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい

○源助老死の事

今ハし。東夷源川のかりふ。太平記の海人として。世伝に
 する。そののりきり。いつもあふ。そのと。さそい人。其
 うら。さそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 もさそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 ともさそいさそい。彼源助のり。そのの。さそいさそい
 ん。さそいさそいさそいさそいさそいさそいさそい
 毛。源物も。そのり。やう。さそいさそいさそいさそい

一、つづもらぬらる事ありきうらむび人へのあつてな
 らぬの事とどがうり今恨ましくしてらるいぬとらせ
 しとぬくおうらとどくけりおぼめらるくさそくかかめ
 るるられたおしり一ひまきけりさういぬすお感乃わあり
 せりし式よ申す也下之御りみ生く世くの思よそとへ
 それらうさ出しおはえんわは深川よその後後よりして
 家徳とりや申書ゆふ人の長らるおぼくは徳もあはんす
 おあよりそハ惟カ乃かうおのまもふと死てのらよ止と
 るありゆへふりとも先達とんらけりさくくあひぬ
 ともしつさほひそそまうのみんさう。表とかりめされとそ
 の場までつ佐の義心然うううり交ひと申けりよ信すまこ
 いとくもあともぬらるさしじくおんとあはあはれらるるか
 かくこのたふおちり。世のうたと村らるさう。一味同人の
 かよおめやハ皮門烟へき人もあまうさう。家臣と
 くアおさう。ハ是北まおうとされと後徳の詞も。庄
 園らの詞。おそそのおつらうものへりすとあまう
 してこれと安とらるさうなるらりとり。びとあひ
 あして残つあまうさうとさめと。徳物まて。説苑とら
 申すおその食とさしものおせのみよ。死と。その徳とらる
 どのちよの徳と申す。アさすやあはれまけしては。阿
 してとおされつらて。ア信すまう。やと。玉指乃詞も
 いとよあまう。つらもの。おとらて。残らると。新
 わらぬ。いともけ。今よ。おを。やと。と。びあ
 とおして。残らると。いとも。又。將あ。と

了密持と九つと一。密持といふちかみといふもては口とら
 一トとれはとあしつてまはしうらむしつてまはしつてまはし
 つかのまひといひてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 とく。なご一とまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 とあそつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 のけと申くつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 ちらのり。まじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 せのいづくわりのまじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 出家のまじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 くのまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 うくまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 つてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし

房の中をわくのまじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 まじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 らく。西才といふまじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 つてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 一とまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 ひさしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 もつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 のまじりつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 あく。かみといふまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 西才といふまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 かりんといふまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし
 とまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはしつてまはし

高名太平記 卷之五 〇十八 前集

四ゆくゑとさいふはとそらひのいふとや西生客としていれ
大らしてはくくるも四うけはわれを今世のそらひと
きうしとてあつたけのそらひとてふまゝとてあつた
たうく四後やしていふとるら西のいふとていふと
んうふりひかりされも教あつていふとていふと
あつてとてあつたけのそらひとていふとていふと
のわのいふ今集乃中まかたはあつたけいふとていふと
かゝるは西ことお色はあつたけのいふとていふと
あつたけいふとていふとていふとていふとていふと
とみまゐる。何うとていふとていふとていふとていふと
そのいふとていふとていふとていふとていふと
り。いふとていふとていふとていふとていふと
あつたけいふとていふとていふとていふとていふと
死よのいふとていふとていふとていふとていふと
生れ死のいふとていふとていふとていふとていふと
り。あつたけいふとていふとていふとていふとていふと
貞女とていふとていふとていふとていふとていふと
はくんとていふとていふとていふとていふとていふと
とていふとていふとていふとていふとていふと
あつたけいふとていふとていふとていふとていふと

西生客のいふとていふとていふとていふとていふと

西生客のいふとていふとていふとていふとていふと

西生客のいふとていふとていふとていふとていふと

高平先生詩集卷之四

高平先生詩集卷之四
終

4

